

第1学年 国語科学習指導案

1 単元名 くわしく かこう 「しらせたいな、見せたいな」

2 単元の目標

○言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くことができる。

(知識及び技能 (1) ア)

○助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「 」)の使い方を理解して、文や文章の中で使うことができる。

(知識及び技能 (1) ウ)

◎経験したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりすることができる。

(思考力、判断力、表現力等 B (1) ア)

○語と語や文と文との続き方に注意しながら書き表すことができる。

(思考力、判断力、表現力等 B (1) ウ)

○知らせたいことに必要な事柄をよく観察して、伝えたいことを選んで文章にして伝えようとする。

(学びに向かう力、人間性等)

3 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
- 言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付いている。 ((1) ア) - 助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「 」)の使い方を理解して文や文章の中で使っている。 ((1) ウ)	- 経験したことから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。 (B (1) ア) - 語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。 (B (1) ウ)	学習の見通しをもち、知らせたいことを進んで観察し、見付けたことを文章にして伝えようとしている。

4 単元について

本単元は、学習指導要領第1学年及び第2学年「B 書くこと」の指導事項(1)ア「経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。」を受けて設定した。今回は、生活科で虫探しをした経験を基に、飼った虫のことを題材として文章を書くことにした。すでに生活科の学習では、いちばん心に残ったことや調べたことなどについてワークシートにまとめているため、普段は題材選びに苦労している児童にとっては取り組みやすい活動になると思われる。

低学年は、目的意識と相手意識をはっきりさせるだけでは、文を書くことが難しい。書くことをたくさん見付けられるようにするためには、取材をしっかり行うことが大切である。そのため、ギガタブで飼っている虫の画像や動画を撮る前に、観点を具体的に理解できる学習を行う指導計画にした。そうすることで、その観点到った情報を収集できるのではないかと考えた。さらに、情報となる画像や動画をたくさん集めておけば、教師もそれを用いて助言をすることができ、児童が自ら見返したり、友達と交流して言葉を吟味したりするときにも活用で

きる。

また、観点を意識して活動に取り組めるように、既習事項をまとめた掲示物だけでなく、観点ごとに具体的な言葉をまとめた掲示物を作成し、参考にできるようにする。この掲示物は、記述だけでなく推敲や共有の場面でも確認する観点として活用していく。

このように、本単元では、「書くこと」の学習過程を意識しながら、「何を」「どのように」書くとよいのかを理解することで、観察して文章を書く基礎を身に付け、「書けそう」「書いてみよう」という思いをもたせていきたい。

5 指導計画（全12時間）

次	時	学習活動	指導や支援の手立て ◇評価（評価方法）
第1次	1	- 単元全体のめあてを知り、学習計画を立てる。モデル① - 家の人に知らせたいことを決める。	○生活科の学習を振り返り、おうちの人に虫探しの学習で飼った虫について知らせる文章を書く学習に対して意欲をもたせる。 ◇知らせたいことを進んで見付けようとしている。〔態〕（発言・記述）
	2	詳しく書くための観点についてまとめ、理解する。モデル②	○共通題材を観察して短い言葉で書いて交流することで、具体的に観点を意識して書いたり、詳しく書く表現について理解を深めたりする。 ◇言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付いている。〔知〕（発言・観察）
第2次	3	知らせたいものをよく観察して、ギガタブで撮影する。	○観点を意識して、さまざまな角度から撮影するように声をかける。 ◇知らせたいことを進んで観察し、必要な事柄を集めたり確かめたりしている。〔思〕（発言・観察・画像）
	4	知らせたいものをよく観察して絵を描く。	○「かんさつのポイント」を参考にして、目、羽、触覚、脚、体の形などを描くように伝える。 ○知らせたいものを写真や動画で確認して、大きく、詳しく描くようにさせる。 ○実態に応じて、外形を描くなどの支援をする。 ◇知らせたいものをよく観察して絵を描いている。〔思〕（観察・記述）

	5 (本時)	・絵から線を引いて、観察して見つけた特徴を短い言葉で書く。 モデル③・ワークシート①	○作例を参考に、見付けたことを短い言葉で書く内容とその観点を確かめる。 ◇経験したことから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして明確にしている。 〔思〕(記述・発言) ◇知らせたいことを丁寧に観察し、書くことを見付け、見付けたことを言葉にして伝えようとしている。 〔態〕(発言・観察)
	6	・作例を比べ、短い言葉をどのように文にするか考える。 短冊	○一つの事柄を1文にしていることに気付かせ、作例を基に、句読点の打ち方、助詞の使い方などを確かめさせる。 ◇助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解している。 〔知〕(記述)
	7	・短い言葉で書いたことを文にして、短冊に書く。 短冊	○短冊を用意して、一つの事柄に対して1枚の短冊に書かせる。 ◇経験したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりしている。 〔思〕(記述・発言) ◇知らせたいものを丁寧に観察し、見付けたことを文にして伝えようとしている。 〔態〕(発言・観察)
	8・9	・短冊を並べ替えて、書く順序を考える。 ・書き出しと書き終わりを考えて、決めた順序に沿って文章を書く。 1 2 ます用紙	○どのような順序で知らせたら分かりやすいかを、作例を基に指導する。 ○好きなところや驚いたこと、発見や感想などおうちの人に伝えたいことを書くことが難しい児童には、書き終わりの文例を示して参考にさせる。 ◇語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。 〔思〕(記述・観察) ◇助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して、文や文章の中で使っている。 〔知〕(記述)

	10	・文章を読み返し、必要に応じて直す。 1 2 ます用紙	○声に出して読んで、間違いがないかを確認させる。 ○既習のP. 19「まちがいをなおそう」を参考に、書いた文章を読み返す大切さに気付かせる。 ◇助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して、文や文章の中で使っている。 [知]（記述）
第3次	11	・書いた文章を友達と読み合い、よいところを伝え合う。 おうちのかたから 用紙	○友達のよいところを伝え合うことで、自分の文章のよいところを見付けることができるようにする。 ◇積極的に書いた文章を読み合い、これまでの学習を生かしてよいところを伝え合おうとしている。 [態]（発言・記述）
	課外	・家の人に読んでもらい、感想をもらう。	○事前に「よくわかったこと」を感想として伝えてほしいという趣旨を家庭に説明し、依頼しておく。
	12	・単元の学習を振り返る。	○単元の振り返りをするすることで、自己の変容を自覚させ、次の学習への意欲につながるようにする。 ◇必要な事柄を集めたり確かめたりすることで、伝えたいことが明確になることを知り、日常生活での書く活動に意欲をもっている。 [態]（記述・発言）

6 本時の指導（5／12）

（1）本時の目標

◎経験したことから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりしている。

（思考力、判断力、表現力等）

○知らせたいことに必要な事柄をよく観察して書くことを見付け、見付けたことを言葉にして伝えようとしている。

（学びに向かう力、人間性等）

（2）展開

時配	学習活動と内容	○指導や支援の手立て ◇評価（評価方法）
2	1 前時の学習を振り返る。	○前時に学んだ、具体的に五感を使って書く観点や表現について確認する。
	しらせたいことを、みじかいことばでかこう。	
1 3	2 本時のめあてをつかむ。	○既習事項を振り返り、書くための観点や表現の仕方を深めて短い言葉でメモすることを理解できるよう

	1 5 3 観察したこと・見付けた特徴を短い言葉で書く。(個人) かんさつのポイント (観点) 目：色・形・数・大きさ・長さ・太さ 重さ・動き・見た目 耳：音・鳴き声 鼻：におい 手：触った感じ 足：踏んだ感じ (表現の工夫) (たとえ) ～みたいな・～のような (オノマトペ) ぐるぐる・とんとん (くらべっこ) ～より大きい・～くらい	にする。 ○教師のモデルを用いて、メモの仕方を確認する。観点が欠けているモデルを用意して、児童の発言で付け加えることで書くための観点到に気付かせる。 ○前時までに学習した観点を想起しながら観察するよう助言する。 ○ギガタブや生活科のワークシートの資料を見返して、詳しく観察し直し、描いてある絵以外のことでも知らせたいことがあれば、メモしてよいことを伝える。 ○既習の観点のどれに当たるか、ワークシートで確認させることで、足りない観点到に気付かせ、それについての言葉を考えさせる。 ◇経験したことから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりしている。〔思〕(記述・発言) ◇知らせたいことを進んで観察し、書くことを見付け、見付けたことを言葉にして伝えようとしている。 〔態〕(発言・観察)
1 0	4 書いたメモを読み合い、考えた言葉を発表し、観点到について交流する。(ペア) 〈交流の仕方〉 ◎わかりやすく・くわしく ①線で結んだ部分と言葉・観点到が合っているか確認する。 ②もっと付け足したほうがよいところについて、一緒に考える。 ・たくさんのポイントが見つけれられたね ・写真と言葉が合っているね。 ・目の形は、何に似ているかな。 →ビー玉みたいだね。 ・口の色は、どんな色なの。 →黄緑っぽい色だったよ。	○観点到や表現の工夫、よさについて交流し、付け足したり書き直したりしてもよいことを伝える。また、うまく伝わらないときには、ギガタブで撮影したものをペアと確認してもよいことも伝える。 ○どの観点到で書いてあるかを確認したり、詳しく知りたいことを質問したりすることで、メモを充実させるようにする。 ○自分の虫の素敵なおところやかわいいところ、好きなところが伝わる表現を取り上げるなどして、よりわかりやすくなるよう意識させる。
5	5 学習を振り返り、次時の予告をする。	○どの観点到について書けたか、いくつの観点到について書けたかななどについて振り返る。 ○次時は、今日考えた短い言葉を文章にすることを伝える。